

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3270400967		
法人名	有限会社 楽舎		
事業所名	認知症高齢者グループホーム宇賀の杜楽舎(東舎ユニット)		
所在地	島根県出雲市奥宇賀町23番地1		
自己評価作成日	平成30年6月24日	評価結果市町村受理日	平成30年8月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社ワイエム		
所在地	島根県出雲市今市町650		
訪問調査日	平成30年7月11日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>入居者の方と生活を共にし、暮らしを支え命を護る。一瞬の笑顔を求めての理念を実践している。又、入居者様の生きてこられた時代、背景を知る事の一つとして「特攻の島 回天」記念館に、毎年11月慰霊祭に送る千羽鶴を入居者様、スタッフ全員で平和を祈り折って届けている。(今年で10年間続けている)</p>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>「西舎ユニット」に記載しています。</p>
--------------------------

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝理念を唱和し、スタッフ間で共有できている。毎月の理念もスタッフが考え実践、評価している。	「西舎ユニット」に記載しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校、保育園との交流がある。入居者様の作品を銀行で展示してもらったり、公民館の文化祭へも出品して参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年福祉フェスティバルへの参加を通して、楽舎での取り組みを地域の人へ向かって発信している。(週2回音楽療法の発表をしている。)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	楽舎での取り組みや現状を報告し、(火災訓練・身体拘束など)意見を出してもらっている。意見はスタッフ間でも話し合い、サービス向上に活かすようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で、意見交換をしている。分からない事や困っている事は、出雲市担当の方に聞くなどして協力関係を築けるように取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について研修を行い、全てのスタッフが正しく理解できている。身体拘束について3ヶ月に1回、検討し、よりよいケアの向上に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について学ぶ場を持ち、スタッフ同士、声をかけ合って、日頃から意識をしてケアをしている。自宅で虐待が疑われるケースでは緊急ショートから入所という流れになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新規入所利用者様の受け入れ等で、日常生活自立支援事業を活用されており、制度について学び、実践している。社会福祉協議会と連携をとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	H30.3月にて新しく、法改正に伴い新重要事項を制作し、運営推進会議の中で説明し、理解して頂き、個々に送付して新しく契約した。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時など積極的に話かけ、意見等聞かせて頂き、運営推進会議等にて発進している。気軽に声をかけて頂いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善研修などより良いスタッフの意見を聞き、日々の支援に活かしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休み時間をしっかり取るように話し合い、声掛けあってリフレッシュに努めている。(職場は明るく楽しい風通しの良い環境作りに努めている)人事評価(3年に1回の年である)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修にどんどん参加してもらっている。そして内部研修にて発表してもらい、スタッフさんにスキルアップしてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の実践発表、研修会に参加するなど、他の施設の方の意見等を勉強させてもらい、質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時前のアセスメント時、前ケアマネジャー、病院等からお話を聞き、ご本人様、ご家族様より困っている事、要望を聞き支援につなげられる様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時前から困っている事、不安な事など相談のっている。ご家族様も納得される支援方法で会話を通して安心してもらえるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様から情報を聞き、前ケアマネジャー、かかりつけ医とも連携しながら支援方法を納得いただいた上で楽舎でのサービスを利用してもらっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と家事支援の出来る事をスタッフと一緒にやっている。ぼたもち作り、笹巻き、干し柿などを通してスタッフが入居者様から教えて頂く事が多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や毎月の手紙で、日頃のご様子をお知らせしている。地域の行事には、ご家族様にも参加して頂き、共に支えられる環境作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの知人、友人にも気兼ねなく面会時にお越し頂いている。面会時名前をお聞きし、ご家族様にもお知らせして、関係が途切れないよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに関係が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握し、孤立しない様にスタッフが間に入り、お話を聞いて座席の位置や環境の整備をしている。共同生活の場でお互いが褒め、支えあうような支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入所されてから退所される間の在籍中の思い出を写真、スタッフのメッセージのアルバムにして届けている。退所されても他事業所、病院へ訪問している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	①一人ひとりの把握(スタッフ間で申し送り時等に毎朝ひとりひとりのご様子を話し合っている) ②本人がより良く暮らし続けるためのケアプラン作成③モニタリング④ご本人様、ご家族様と対話し支援に活かしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にしっかり面接等している。ご本人様に必ずお会いしている。又、入所前のサービス利用担当者、あるいはケアマネージャーからも情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状況アセスメント用紙に記録し、誰が見ても一目でわかる仕様にしてある。毎朝・夕の申し送り時にも話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	変化が有る無しにかかわらず、ご様子をご家族様にお手紙等にて知らせている。特変ある時は必ずご家族様(本人)と相談して変更ケアプランを作っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のモニタリングをカルテに記入し、心身の変化は必ずスタッフ間で情報共有している。ケアプラン見直しもしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急変時かかりつけ医、ご家族様と連絡を取り合い、状況に応じた対応に努めている。ゆっくり落ち着いてお話し出来る空間づくり、お茶出し等のサービスをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館・保育園・小学校・中学校との交流を設けている。銀行へ作品を出展するなど一人一人が目標とやりがい、楽しみを持ち能力を発揮している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を継続して頂き、24時間医師へ連絡体制もとれている。基本ご家族様で対応して頂いているが、困難な方はヘルパーを利用してもらっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルの異常があれば、看護師やかかりつけ医へつなぎ、指示をあおぎながら支援と看護にあたっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院にあたり、カンファレンスを行い、今後の支援について決めている。入院中スタッフが面会に行き、情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態が変化する事に説明している。ご本人様、ご家族様の意向を尊重し、かかりつけ医とも、連携を取りながら安心して頂ける体制作りと支援の実践を心がけている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを設け、全入居者様のカルテに119シートを加えて、バイタル異常値、病歴を日頃から確認している。また救急対応の研修にてAEDの使用方法を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災消防訓練は、年に2回実施している。夜間想定や水害時を想定した訓練も行っている。避難アセスメントにより、全スタッフが早く誘導できるように訓練している。ネームプレートを用いて地域の方にもすぐ分かるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄、入浴時など羞恥心を大切にして、優しい言葉かけ、ゼスチャーも取り入れ、日々寄り添っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出、行事参加にご本人の思いを大切に取入れている。食事、おやつ時の飲み物など希望を取り入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の体調に合わせて、食事・レクリエーション・外出行事を行う支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃から清潔な衣類を着用し、季節・温度、体調に合った服、理容(髪・爪・顔そり・耳)お化粧品などで支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の物、希望の物を取り入れながら、下準備、盛り付け等を入居者様に応じた支援をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重増加の方、糖尿病の方、好き嫌いの多い方、量やカロリーを考えて摂取してもらっている。お茶ゼリーやみそ汁で水分量を確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。汚れ、臭い、菌汚染しない様にご自分で出来にくい方は必ずスタッフが介助している。又出来る方でも声掛け、見守りを行い清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時にお声掛けをして、トイレ誘導をして、パットの汚れ等確認している。夜間のトイレ時間を記録に残し、全員でパターンを理解するようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食時、午前、午後お茶の時間に水分をしっかり取って頂き、水分の入りが少ない方にはお茶ゼリーをお付けしたり、汁を多くよそってお出ししている。又牛乳も飲用して頂いている。体操では腸を動かす体操を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	家庭用のお風呂で安心して1人ずつ入れる。その時その時の状態をみてお声掛けしたり、希望されるタイミングで入浴して頂いている。又楽舎温泉を行い、入浴剤を入れ温泉気分を味わいながら楽しいひと時を過ごしていただける様支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一部屋で安心して休めるよう、物音等出さず静かに夜は安眠に心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事を確認し、スタッフ一同把握に努めている。誤薬がないように氏名・日付・いつ服用か声に出して確認し、服用して頂いている。その方によって手の上、口の中、カップを使用したりしてしっかり服用されるのを確認している。症状に変化があれば、申し送りし、スタッフ同士共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理、運動などお好きな事をお聞きし、その方の生活歴を活かした支援に取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じ、春の花見や近くの公園でさつき・チューリップなど見に出かけたり、近くのお食事処でお好きな物を選んで頂き外出を楽しんで頂いている。又地域の行事、展示会にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望したものをスタッフがかわりに買いに行ったりしている。お金を持つ事を大切さは理解しており、希望があれば説明をした上で所持してもらう事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい時には、話ができるよう支援している。年賀状や手紙の支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が分かるような作品を飾ったり、温度の調節をして居心地良い空間を作っている。台所からは食事の良い匂いもしており、生活感も感じやすい。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで休んだり、たたみで洗濯をたたんだり、一人で過ごせるスペースがある。仲良しさんと休憩できるベンチも廊下にもあり、お話しされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家と同じ配置で家具を置く様にしている。ご本人にとって愛着のあるもの、馴染みのある物をそのまま使ってもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目線の位置に分かるように張り紙をしたり、赤テープで目印をつけて取っ手やレバーなど分かりやすいよう工夫している。常に整理整頓、動線に気を配り、安全な環境作りをしている。		